

フェミニズムに影響を与えた文献として、ヴァージニア・ウルフの『自分ひとりの部屋』が挙げられる。この書評の中でジェイン・オースティンも取り上げられ、ウルフは彼女を高く評価している。だが、オースティンの執筆環境は、ウルフの理想とは大きく違うものであった。オースティンの執筆はどのように行われたのか。またオースティンの生み出した作品の女性達はどのようにして「自分ひとりの部屋」を手に入れたのか。『高慢と偏見』と『マンスフィールド・パーク』を中心に分析していく。